

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/08/27 ~2018/09/01)

1. 勉学の状況

授業開始から1週間が経ち、2018秋セメスターに履修中の一通りの授業を受け終わりました。1週間に二回授業がある科目が2つ(75分/100分)、残りの3つは週一回(各160分)となっており、どれも進みが早く課題も毎回課されます。例えば映画分析についてまなぶ Intro to Screen Study という授業では、指定された映画1本を視聴し気づいたことについてノートを取っていくこと、教科書は30~50ページ分 + PDFで配られる補助資料5~10ページ分のリーディングが授業一回分の課題です。これが週二コマあり間は1日なのでタイムマネジメントが非常に重要になりそうです。授業では、課題で視聴し、読んだものをもとに教室全体で議論する時間が取られます。また、週一回の撮影や編集などの実習の授業では、これからプロジェクトが課されていく予定になっており、年末の長期休み(およそ1ヶ月間)まではあっという間に過ぎてしまいそうです。上記で紹介した Screen Study の授業以外が一番多いものでも20人までの少人数授業で全員に十分な発言機会が設けられており、受動的に授業を受ける余地はありません。もともとディスカッションやプロジェクトワークが授業の中心であることが The New School の特徴だと認識していたが、早速肌で実感しております。

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
9:00	Intro to Editing[3] 9:00-11:40 (160) CRN 7246 Arnhold Hall 55 W13th 804 Keith Sanborn	Intro to Screen Studies[3] 10:15-11:30 (75) CRN 1992 Johnson/Kaplan 66West 12th 407 Noah Isenberg		Intro to Screen Studies[3] 10:15-11:30 (75) CRN 1992 Johnson/Kaplan 66West 12th 407 Noah Isenberg	Intro to Cinematography [3] 9:00-11:40 (160) CRN 4572 Arnhold Hall 55 W13th 821 Justin Schein
11:30					
11:40					
12:10					
13:50	Art. Activism & Revolution[4] 13:50-15:30 (100) CRN 7454 6 East 16 St 902 Yates McKee		Art. Activism & Revolution[4] 13:50-15:30 (100) CRN 7454 6 East 16 St 902 Yates McKee		
14:50					
15:30		Media Toolkit[3] 15:50-18:30 (160) CRN 1564 Arnhold Hall 55 W13th 803 Michele Beck			
15:50					
18:30					

どの授業も、千葉大学では学ぶことのできない、また The New School だから学ぶことのできる科目であり、どの教授も非常に魅力的でこれからの授業が楽しみです。ただし一言付け加えるのであれば、(私立の大学だからなのかわかりませんが)教科書が一冊100ドル以上するものを用意するように求められたり、実習のために機材を揃える必要があったりするため、出費がかさみます。

(↑時間割は自分で作成したもの)

2. 生活の状況

日によっては非常に暑い日もありますが、比較的涼しい日々が続いております。時折突然の雨が降るため折り畳み傘は常に持ち歩くようにしています。

ニューヨークシティを訪れるのは4度目で、ある程度の地理感覚や日本のものや食事などが手に入る店のありかなどは把握していたため、生活に必要なものを揃えることは思いの外容易でした。またこちらに日本国籍の知り合いが2人ほどおり、大きな寝具などの買い物は手伝っていただきました。派遣留学では運転ができませんが(そもそも免許も持っていませんが)ニューヨークは公共交通機関が充実しているためマンハッタン島を出る必要がある時以外は全く困りません。

住居は大学の寮を申請していましたが、私は主要施設がある場所から徒歩 18 分のところにある寮で、寝室は一人一部屋・1つのキッチンと2つのバスルームを12人で共有という大きなスイートに割り当てられました。寝室はマンハッタンの中心部にしては思いの外大きく快適です。洗濯は寮のビル内にコインランドリーがあり、週末は多くの学生で取り合いになります。寮のスタッフが配達を受け取りもしてもらえるため、Amazon に本などを発注することもでき、課題や研究が捗りそうです。食事は、学内施設のカフェテリアをメインに考えていましたが、思いの外価格帯が高く、昼食については歩ける範囲にある安くお腹にたまるものを開拓しています。朝食は作りたてのベーグルを、夕食は暖かい惣菜をそれぞれスーパーで買うのが手頃で、習慣化しつつあります。



3. その他（留学生の実態について）

The New School は、以下の主要 5 部門から成り立っています。

- Parsons School of Design [通称 PARSONS] (デザイン)
- Eugene Lang College of Liberal Arts [通称 LANG] (リベラルアーツ) <私はココに所属>
- College of Performing Arts [通称 CoPA] (Music / Jazz / Drama の3つ)
- The New School for Social Research (社会科学の大学院：これが母体になった)
- The School of Public Engagement at The New School (社会人や編入学生などが所属する)

基本的には上記の部門ごとに教育プログラムが提供されていますが、International Students の管理は、The New School 全体で統括しております。以下に、International Students についてわかったことをまとめて共有したいと思います。

(※ International Students の定義：米国以外から4年制に入学してきた学生＋交換留学生)

【International Students ガイダンス でわかったこと】

- The New School 全体に現在所属している International Students : 3658 人
- 今年新しくきた International Students : およそ 1000 人 (会場の座席数から億測)
- うち、交換留学生 : 30 人 (うち、秋セメスター (8-12月) のみの人 : 25 人)
- International Students のうち4年制に「入学」した人 : $1000 - 30 = 970$ 人程度

【Exchange Students (30人) ミートアップ でわかったこと】

- 30人中27人は (見た感じでは) 女性
- 男性は (見た感じでは) 3人 (私+シンガポールからの学生2人)
- 日本からの exchange は2人 (私+上智大学国際教養学部の2年生)

International Students のうち「入学」してきた学生の1/3～半分近くは中国をはじめとするアジア系の学生のように見えました。一方で exchange の学生30人は、協定校の関係なのかヨーロッパや北米からの学生が大半を占めていたのも印象的でした。またジェンダー比については、そもそも The New School の所属学生の7割が女性であるという統計があるため、デザインやアートというディビジョンがジェンダー比に関係していると仮定すれば、留学生についてもこのような比率であることはある種「自然」なことなのかもしれません。